家忠日記増補　八

内閣文庫
和書類
三二四七八號
二五冊
天三函
三架
（八冊）

内閣文庫
番號 和 32478
冊數 25(8)
函號 163 60

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

家忠日記追加巻之八

自天正十年九月至同十一年十二月

天正十年壬午

九月大

一日北条氏直ガ兵斥候トシテ御味方ノ陣ニ来リ窺フ酒井左衛門尉忠次カ一手ノ軍勢ヲシテ是ヲ追ヒ撃タシム

保科越前守正直高遠ノ城ニ在テ酒井左衛門尉忠次ヲ以テ　大神君ノ麾下ニ属

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

シ軍忠ヲ励ント請フ忠次此ノ旨ヲ新府中
ノ御陣ニ達ス大神君是ヲ許シ給フ于
時藤澤次郎頼親伊奈郡箕輪ノ郷ニ要害
ヲ構エテ是ヲ守リ 大神君ニ叛ク正直
兵ヲ箕輪ニ發メ攻撃事三日遂ニ箕輪ノ
城ヲ抜ク
十九日 曽根平太夫ガ忠死ニ依テ其子
松千代ニ 大神君大久保忠隣成瀬一齊
ニ命メ采地ヲ賜フ
甲州曽祢堀内之慈照寺寄進之四十
貫文駿州段稻慈照寺之内十二
貫文并名田役官等之事右父平太
於中牧之討死之条本領不可有相違
者也仍如件
九月十九日 大久保新十郎
曽根松千代殿 成瀬吉右衛門

九五日大神君豆州駿州ノ境三枚橋ノ
城ヲ松平周防守康親ヲシテ守ラシメ給フ
小笠原安藝守信元同姓丹波守安次是ニ
加ル北条ガ軍勢小田原ヨリ三島ニ至テ
出張ス三枚橋ノ城兵等進テ是ト戰フ小
笠原丹波守安次奮戰テ死ス小笠原安藝
守信元ガ從卒小笠原市蔵大嶽彌吉勇ヲ
奮テ戰死ス此ノ戰功ニ依テ安次ガ子新九

郎廣勝及ビ小笠原安藝守信元ニ富士郡
ニ〆各采地千石ヲ加賜セラル
韮山ノ敵屢来テ三枚橋ノ城ヲ窺フト云
ヘドモ松平周防守康親堅ク守テ是ヲ拒
グノ間敵城ニ近ヅク事ヲ得ズ
本多作左衛門尉重次沼津ノ城ニ在テ是
ヲ守ル敵韮山ノ城ヨリ軍ヲ戸倉ニ出ス
重次沼津ノ城ヨリ兵ヲ發〆是ヲ攻撃ツ

敵利ヲ失テ敗亡ス重次是ヲ韮山ノ外郭木戸ノ邊ニテ追撃テ首級三十餘ヲ得タリ

十月大

六日 新府ニ陣スルノ諸將各輕兵一人ヲシテ御嶽ノ警衞ニ赴カシム

廿四日 今度保科越前守正直 大神君ノ幕下ニ屬ス是ニ依テ 大神君信州伊奈半郡ヲ以テ正直ニ賜ル

今度對當方忠信之由酒井左衛門
尉披露竟以誓詞之上者
為伊奈郡出置事無之相違
候弥此旨以抽軍忠之状如件

天正十年
十月廿四日

保科越前守殿

大神君高木九助ヲシテ高木善次郎清秀後ニ主水佐ト号スヲ召ス清秀武名アルニ依テ也清

秀召ニ應〆新府ノ御陣ニ參候〆始テ
大神君ニ謁シ御家人ニ屬ス食邑ヲ召シ
清秀ニ賜ル（清秀是ヨリ先キ水野ニ屬ス）
廿九日 北条氏直數日 大神君ト對陣
〆兵ヲ締ビ謀ヲ廻スト云ヘドモ其利ナ
ク勇力漸ク衰フ是ニ依テ北条美濃守ヲ
以テ 大神君ニ和ヲ請テ云ク上野沼田
ノ地ヲ以テ甲州都留郡及ビ信州佐久郡

ノ地ニ易エ甲信兩國ハ 大神君全ク領
内タルベシ上野ハ一圓ニ氏直是ヲ領ス
ベシ 大神君是ヲ許シ給フニ依テ和睦
成ル于時氏直大道寺孫九郎直政及山角
ノ某兩人ヲ質ト〆 大神君ニ獻ズ
大神君酒井小五郎家次ヲシテ北条ガ方ニ
遣ハシ〆給フ
晦日 大神君ノ姫君ヲ以テ北条氏直ニ

嫁シ給フベキノ旨御契約アリ是ニ依テ
互ニ質ヲ取リ置クニ及バズ　大神君鳥
居元忠榊原康政水野勝成ヲシテ北条カ質
大道寺山角ヲ三坂ノ城ニ送リ返サシメ
給フ北条美濃守氏規ニ是ヲ渡シテ鳥居榊
原水野等三坂ヨリ帰ル
大神君御味方ノ軍勢築摩ノ河上岩村田
ノ城ヲ攻ム城兵固ク拒ギ守テ城陥ラズ

寄手ノ軍勢利無シテ引退ソカント欲スル
ノ處ニ城兵進テ出慕ヒ戦フ于時依田右
衛門佐後殿シテ勇ヲ励シ奮戦ヒ大ヒニ利
ヲ得テ敵ヲ撃捕ル事三百餘人残兵皆敗
シ去ル　大神君其戦功ヲ褒セラレ依田
右衛門佐其弟新九郎源八郎及ヒ従卒依田
豊後守同姓右近同姓主膳正奥平金彌等
ニ御感状ヲ賜ル

十一月小

四日大神君命メ上ロ山取出ノ要害ヲ修セシメ給フ

此日松平主殿助家忠明五日善光寺表ニ發向スベキノ旨鈞命ヲ蒙ル、

五日松平主殿助家忠兵ヲ卒メ善光寺ニ赴ク

六日家忠向山ニ屯ス

七日勝山取出ノ要害ヲ築ク

此月柴田七九郎ヲ部將トシ依田ガ軍勢先陣ヲ伴野刑部太輔ガ楯籠ル前山ノ城ヲ攻テ是ヲ陥ル刑部太輔ハ小笠原ガ族ニメ數代弓馬ノ名人ナリ此時ニ至テ伴野ノ家滅亡メ其道ヲ断絶ス其後柴田依田兵ヲ發メ高棚及ビ小田井ノ城ヲ攻テ是ヲ抜ク

信州ノ士平原善心平尾平藏大井民部少輔小山田六左衛門尉森山豊後守志賀與三左衛門尉柏木六郎等降ヲ乞テ各大神君ノ幕下ニ屬ス

十二月大

三日 大神君ノ鈞命ヲ奉テ松平主殿助家忠陣ヲ江口ニ移ス

七日 江口ノ修築成ル

十一日 大神君右府ニ御陣アリ松平主殿助家忠右府ニ參候ス 大神君ニ謁ス命有テ家忠ニ休暇ヲ賜ル其餘三州ノ諸將ニ各暇ヲ賜リ明十二日歸國スベキノ旨台命ヲ蒙ル

此日柴田勝家ガ使者古府ニ来ル緘二十端綿百把鱈五尾ヲ以テ大神君ニ献ズ

十二日 三州ノ諸將甲州ノ古府ヲ發ス

本國ニ趣ク
今度大神君ノ麾下ニ屬スル甲信両國ノ諸士ヲ甲府ニ召テ忠志ノ輕重ヲ糺サレ或ハ全ク本領ヲ安堵シ或ハ旧領ヲ減ゼラルヽ時平原ノ某本領ヲ賜ルベキノ處ニ甲州ノ士是ヲ悪デ先日笛吹川一戦ノ時一揆ノ本人大村三右衛門尉ト平原同意スルノ由ヲ訴ル又田村ノ郷民等此儀必定タルノ田ヲ頻リニ訟フ是ニ依テ平原及ビ訴人ノ輩ヲ大神君御前ニ召テ對決ニ及ブ平原遂ニ逆意ナキ旨ヲ爭ヒ遁レテ御前ヲ退出ス其甲乙イマダ决シ難キ事有ルニ依テ平原ヲシテ押ヘ留シメ給フ平原内ニ野心有ルノ故カ是ヲ誅セラルヽト欲メ奥山新八郎ガ家人ノ童午其主ノ奥山ガ刀ヲ携ルヲ平原走リ寄

テ是ヲ奪取テ大神君ノ御前ニ於テ争論スルニ依テ平原刀ヲ帯セズ
彼童ヲ忽ニ殺メ勇ヲ震テ切テ廻ル諸士
多ク御前ニ候スルト云ヘドモ周章メ敢
テ平原ニ向フ者ナシ然ル處ニ甲州ノ士
辻彌兵衛尉手捕ニセント是ニ向フ平原
間近ク詰寄セ辻ガ真向ヲ切ル辻勇士タ
リト云ヘドモ両眼ニ血流入ルノ間途ヲ
失テ進ム事ヲ得ズメ遂ニ退ク平原彌勇

三進テ大神君ノ御前ニ向テ切テ入ル
于時土屋權右衛門尉御前ノ雨戸ヲ引タ
ツル小幡又兵衛尉于時十六歳尾張ノ守カ男短刀ヲ以
テ平原ニ向ヒ戦フ小幡左ノ手ニ疵ヲ蒙
テ聊カ退ク來見新右衛門尉傍ナル鑓ヲ
採テ平原ニ向ハント欲ス平原急ニ進テ
來見ニ切テ懸ルノ間來見鑓ヲ採ナヲス
隙ナク石突ヲ以テ平原ヲ突倒ス于時小

幡走リ寄テ遂ニ手原ヲ撃殺ス　大神君
小幡ガ勇功ヲ美稱シ給フ江彌兵衛尉志
ハ勇ナリト云ヘトモ釼戟ヲ提相働クノ
敵ニ手捕ニセント無力ニメ是ニ向フノ
条卒忽ナル旨ヲ　命ゼラレ本領ヲ放サ
ル
今度　大神君ノ幕下ニ屬スル甲信両國
ノ諸士等自今以後忠信ヲ尽スベキノ旨

遠州秋葉寺ニ於テ各連署ノ起請文ヲ書
シメ給フ成瀬吉右衛門尉日下部兵右衛
門尉是ヲ奉ル
連署ノ誓盟ヲナス輩今福新右衛門尉當
根下野守駒井右京進青沼助兵衛尉小菅
又八郎三枝松監物跡部九郎右衛門尉河
窪新十郎下曽根源六郎跡部民部太輔油
川刑部少輔大井監物岩手助九郎油川彌

平次栗原日向守三枝松平右衛門尉

以上是ヲ武田親族衆ト云フ

長澤佐左衛門尉竹居郷右衛門尉窪田彌
平左衛門尉白澤傳兵衛尉天川平次郎今
井弥四郎

以上是ヲ二十人衆ト云

原三右衛門尉山本源三郎跡部源左衛門
尉高室清三郎米倉造酒之丞同姓半兵衛
尉牛具織部正岡野神太郎平林藤助山中
主水正

以上是ヲ近習ノ衆ト云

土屋三郎右衛門尉岩間將監窪惣左衛門
尉小宮山又七郎窪島平五郎有賀式部少
輔高林又十郎須田惣市市川内膳正石原
孫八郎飯室庄左衛門尉同姓與左衛門尉
河西孫右衛門尉三田太蔵少輔御手洗藤

十郎横地弥兵衛尉内藤織部正横地喜三
郎白澤久助長井文五郎窪田内記中澤惣
九郎河野庄左衛門尉塚原次左衛門尉中
澤主税助鎌田権左衛門尉内藤源助飯田
右馬助今福求之助同姓彦藤五味主殿助
保坂監物青沼縫殿助南宮十兵衛尉風祭
兵助南角十左衛門尉牛貝與惣左衛門尉
水上六郎兵衛尉向山新之丞窪島與一郎

安倍源太郎保科新兵衛尉小田切大隅守
山本主殿助松月齋延午駒井宮内大輔工
藤市兵衛尉同姓弥左衛門尉同姓甚太郎
市川宮内少輔同姓喜三郎小畑藤五郎
以上同ク近習ノ衆ト云フ
萩原甚之丞窪田助之丞同姓藤左衛門尉
中村藤六郎石坂藤兵衛尉志村又左衛門
尉山本孫左衛門尉河野傳之丞

以上是ヲ小十人頭ト云フ

大志萬與次郎海野市助井利六之助中澤市左衛門尉大窪惣右衛門尉長谷與惣右衛門尉今井主計助青沼與兵衛尉河合作兵衛尉塚田内藏助志村善右衛門尉五味源兵衛尉市川新右衛門尉塩里屋久兵衛尉萩原市之丞岩下七郎左衛門尉惣田七兵衛尉南宮庄左衛門尉窪田平右衛門尉

野呂瀬庄之助杁田次左衛門尉南切源右衛門尉宮澤善兵衛尉三澤佐右衛門尉同姓四郎兵衛尉鮎河新五兵衛尉小池主計助河西喜兵衛尉天川兵部少輔島田外記岩下又左衛門尉渡邉半左衛門尉村松喜太夫安部式部少輔塚本喜兵衛尉雨宮源之丞鮎澤善右衛門尉今井兵部少輔末木宮内太輔深藤兵部太輔川口彦三郎山村

彦兵衛尉鮎澤織部正深海民部大輔加加
爪右衛門尉中山久右衛門尉高野清七郎
初鹿庄右衛門尉任連木郷左衛門尉太田
宮内少輔小林主税助小田切主税助若槻
次郎左衛門尉小池四兵衛尉河野又一郎
細野源五右衛門尉安部惣十郎須田民部
大輔植原市之丞岩下郷左衛門尉山下彌
兵衛尉樋口三郎右衛門尉飯田甚五右衛

門尉飯邉作右衛門尉河野好右衛門尉花
岡藤兵衛尉若槻主計助一瀬彌五左衛門
尉小宮山郷左衛門尉折井民部少輔

廣瀬美濃守三科傳三郎石黒將監石原五
郎右衛門尉藤堂新兵衛尉天川宮内少輔
井込文兵衛尉小澤佐左衛門尉石原郷右
衛門尉保科喜右衛門尉飯室宮内少輔同

姓八郎兵衛尉藥袋原庵之助花輪又三郎
横田善次郎飯川彦四郎河手又左衛門尉
萩原孫兵衛尉小澤喜平次大窪式部少輔
三井勘三郎大島居藤太郎長坂十左衛門
尉上村右近丞齋藤修理亮廣瀬市右衛門
尉本郷源三郎秋山權之助原帶刀成島勘
五郎福島十左衛門尉礒野左太夫内藤主
膳正長井傳内窪田又右衛門尉折井市之

丞北村源右衛門尉同姓八左衛門尉横村
彌兵衛尉穗坂金討助志村清三郎中込加
助金丸助七郎細籠雅樂助小林彌右衛門
尉菊島彌助藤田彌三郎今村作三郎須澤
又兵衛尉風間甚八郎武藤久左衛門尉吉
田助三郎岩間作内武川市兵衛尉
　以上是ヲ山縣衆ト云フ
落合惣兵衛尉祢津宮内少輔柏原平兵衛

尉小田切次太夫河野内記小倉將監古屋
織部正河野靱負助平尾三右衛門尉飯島
作三郎金丸善次郎清水主殿助小池又右
衛門尉古屋助之進田澤茂右衛門尉清水
庄五郎丸田甚四郎向山又八郎細野彌左
衛門尉一瀬傳右衛門尉初鹿金兵衛尉石
田作太夫岩下惣太夫今井清十郎須田弥
次右衛門尉河西與太郎三井平次郎東条

民部少輔郷庭民部右衛門尉内田市之丞
関口惣十郎岡角三郎塚原新四郎山本源
三郎切部次右衛門尉前島半兵衛尉平林
作兵衛尉飯田市右衛門尉角田主計助市
川四郎右衛門尉切部助七郎篠木彌助東
条角右衛門尉河西甚五兵衛尉
以上是ヲ原隼人正衆ト云
青柳内匠助青沼郷左衛門尉安部七郎兵

衛門尉矢嵜長助横内民部右衛門尉坂本清
三郎秋山九右衛門尉横内作之丞萩原作
左衛門尉高輕藤四郎橋田藤十郎志村久
右衛門尉渡邉藤三郎中込藤之丞飯田民
部少輔

以上青沼助兵衛尉同心ノ士

和田主計助須田長助石黒與惣兵衛尉水
上藤兵衛尉深津藤兵衛尉松原平助丸山
市兵衛尉山本源三郎窪藤右衛門尉内田
新十郎同姓又三郎向山宮内右衛門尉大
村六右衛門尉一瀬清四郎小瀬村右近藥
代源七郎石田善助同姓小兵衛尉小宮山
新七郎大窪權右衛門尉高野與十郎塚原
藤八郎橋森織部正雨宮七左衛門尉村田
市左衛門尉窪田小七郎井尾源三郎樋口
次左衛門尉大澤半左衛門尉風間藤七郎

廣原庄右衛門尉上野助之丞岡市之丞細田六三郎中村九右衛門尉依田縫殿丞甲澤與八郎同姓善七郎野澤彌左衛門尉水上久助青柳平五郎飯田惣兵衛尉小澤彌兵衛尉箭井藤七郎萩野助之丞鈴木與三兵衛尉川西作右衛門尉金子助右衛門尉風間七郎右衛門尉中村孫兵衛尉古屋新五郎逵甚内細野佐左衛門尉金丸藤七郎大島平五郎千野源之丞鮎澤主水正志村小兵衛尉鮎澤猪之助長澤孫左衛門尉同姓雅樂助同姓彌右衛門尉穂坂彌助高野五右衛門尉穂坂彦次郎依田善五郎塚本源助窪田久右衛門尉野澤次郎岩本又次郎内藤久左衛門尉

以上是ヲ一条衆ト云

芦澤左近松原宮内太夫内藤織部正下条

九左衛門尉同姓作兵衛尉同姓彌兵衛尉窪南藤三郎相原次左衛門尉同姓次兵衛尉千野左門同姓又右衛門尉同姓七左衛門尉塩入次左衛門尉石原次右衛門尉相原内匠助深澤市左衛門尉渡邉三左衛門尉相原兵部左衛門尉同姓惣左衛門尉同姓靫負助同姓九左衛門尉井上市右衛門尉

以上是ヲ御嶽衆ト云

三木助左衛門尉高橋次左衛門尉宕間與一郎谷尾惣兵衛尉石黒吉兵衛尉矢田佐左衛門尉原助兵衛尉同姓半兵衛尉長澤左兵衛尉坂本傳助野澤加右衛門尉高野彌左衛門尉西山金兵衛尉廣瀬主計助同姓市助塚本助七郎福島三郎右衛門尉竹田助十郎山田源三郎野口又左衛門尉河野助右衛門尉三科惣七郎耳利民部左衛

門尉切原宮内少輔
以上是ヲ小山田衆ト云
三科孫兵衛尉大島五兵衛尉五味與左衛
門尉舩河次郎左衛門尉惣田加兵衛尉須
田市右衛門尉窪田彌七郎竹田左吉藤堂
孫四郎鄉場主税助石井三右衛門尉大窪
四郎兵衛尉同姓新兵衛尉横森甚三郎原
監物齊藤四郎左衛門尉古屋新九郎藥袋
勘左衛門尉同姓與助須田淡路守原田仁
兵衛尉細野新右衛門尉山田惣右衛門尉
小野喜兵衛尉岩下清八郎平井作左衛門
尉荻原太炊助中田清兵衛尉丹澤主計助
坪内彦十郎串村新兵衛尉
以上是ヲ遠山衆ト云
倉森主水正神宮右近寺島孫右衛門尉橋
田三郎右衛門尉風間作左衛門尉岡勘兵

衛、尉羽蓮善次郎岡太郎次郎渡邉惣兵衛、
尉小池七郎右衛門、尉名越肥後守林主水、
正駒井兵部、少輔石村源五右衛門、尉下条
主水正穂坂清左衛門、尉岩根清兵衛、尉若
名新九郎内田善十郎萩原次兵衛、尉坂本
作右衛門、尉長田九助
以上是ヲ栗原（クリバラ）衆（シユ）ト云
土屋才兵衛、尉同姓與助深登左近、太夫水

上藤六郎井上三郎兵衛、尉九山治部右衛
門、尉向山采女小田切雅楽、助飯沼右馬、助
前島宮内助同姓與左衛門、尉同姓織部、正
若尾藤三郎同姓惣三郎伊奈半兵衛尉乙
黒彌三郎内藤又七郎白井内三郎小池十
兵衛、尉駒井兵部、飯田助左衛門、尉小柳津
右衛門、尉大関五兵衛、尉矢津庄右衛門、尉
小野助太夫竹川新三郎石屋六兵衛、尉同

姓與十郎中村清三郎高田新七郎飯野助
右衛門尉篠本新九郎
以上是ヲ典厩衆ト云
金田甚九郎安藤佐左衛門尉伴物助尾崎
彦八郎入戸野四方之助多田九右衛門尉
下条久助松原権兵衛尉中澤波之助同姓
惣助中山作手次原田五右衛門尉塚田善
内竹内作右衛門尉駒澤五郎左衛門尉間

宮甚六郎小林加兵衛尉木村仁兵衛尉萩
原久右衛門尉檜原仁右衛門尉春日四郎
兵衛尉山下新三郎大橋八兵衛尉秋長次
郎細野蒲右衛門尉金尾數負助高砂太十
郎大窪甚助岩間郷右衛門尉島野傳之丞
平井十左衛門尉小池監物小倉清三郎窪
田興太夫荻原治左衛門尉同姓蒲兵衛尉
大村次左衛門尉鶴田次右衛門尉小澤源

兵衛尉古屋小兵衛尉鈴木孫次郎石原角
兵衛尉中込喜兵衛尉雨宮七左衛門尉日
貝善五郎町田縫殿助
以上城織部正ガ同心ノ士
落合九兵衛尉奥山作右衛門尉向山一平
土屋新太郎河西源五郎小田切久七郎井
門彦一郎渡邊善三郎金丸藤蔵志村半兵
衛尉下新兵衛尉井利帯刀志村九兵衛尉

篠原藤七郎小田切平次郎河西又兵衛尉
塚原與三次野呂瀬半作石原十助塩本善
三郎市川新三郎河村新三郎
以上今福筑前守ガ同心ノ士
曽根下野守小宮山淡路守奥山織部正森
主水正古屋宮内少輔森源之丞飯島傳三
郎鷹野傳左衛門尉野澤半左衛門尉鶴田
曽七郎前島源次郎樋羽三蔵三井二郎三

郎稲織部正山下三右衛門尉太多木好古
奥山曽三郎小濱宮内少輔石原日向守藥 三十
袋帶刀橋田孫兵衛尉渡邊又左衛門尉雨
宮藤九郎古屋助左衛門尉高野外記石橋
忠左衛門尉岩間木工左衛門尉竹内
小島　横井　野口　北川　横森　白井
以上曽根下野守同心ノ士
入蔵兵部少輔河野又兵衛尉萩原喜兵衛

尉樋口又兵衛尉柏原兵四郎大村藤四郎
田中作兵衛尉中澤新三郎齋藤彦兵衛尉
同姓善助小宮山小兵衛尉田中藤右衛門
尉同姓善五郎同姓勝之丞井鄉織部正竹
野源之丞小野市之丞鷹野右馬助同姓彦
兵衛尉同姓弥兵衛尉沼上新十郎野澤宮
内少輔善尾清七郎三科清五郎中澤角右
衛門尉塩入藤兵衛尉横森兵左衛門尉藤

室藤兵衛尉志村惣十郎同姓惣兵衛尉中
澤清三郎同姓藤七郎内藤惣兵衛尉矢島
清五郎佐熊甚右衛門尉同姓與三兵衛尉
名取善次郎同姓彌左衛門尉石原善兵衛
尉三井與三兵衛尉田中多門之助
以上今福（イマブク）新右衛門尉同心ノ士
向山久兵衛尉關主水正渡邊靱負脇又一
郎土屋次郎右衛門尉早川弥三左衛門尉

中村與兵衛尉後藤與三右衛門尉梶原肥
後守飯島宮内太輔早川半兵衛尉上澤美
濃守細野豐後守横屋市左衛門尉向山佐
渡守落合將監丸山半右衛門尉渡邊右馬
助田中源左衛門尉後藤久左衛門尉高塚
七郎兵衛尉川野作右衛門尉四宮藤右衛
門尉水口平太夫原田右衛門尉国村助三
郎祢津小兵衛尉土屋甚五兵衛尉鶴田内

直助矢田儀左衛門尉小池水右衛門尉小倉源兵衛尉同姓彌助荒川善之丞細野勘三郎青柳源三郎井上權兵衛尉大塚新之丞関新兵衛尉横田新八郎千野牛之助柳澤市右衛門尉玉橋助太夫平井十右衛門尉細野藤右衛門尉中村平右衛門尉古屋與兵衛尉飯野藤右衛門尉小倉久四郎相良左近一瀬平三郎伴喜右衛門尉川口藤

左衛門尉武藤長助渡邊左太郎篠本彌三左衛門尉岩本圖書之助矢島小右衛門尉神山惣太夫清水勘七郎神戸左門野田助三郎渡邊清七郎金丸四郎兵衛尉古屋新七郎蘂袋(ミナイ)九兵衛尉

以上是ヲ土屋(ツチヤ)衆(ニ)ト云　大神君ノ命ニ依テ井伊(イヽ)萬(マン)千代直政ニ屬(ヒヨリ)ス

本田監物加々爪源次郎今福右馬助依田

三郎左衛門尉高室源三郎今福善六郎御
手洗新右衛門尉横井彦八郎石原茂助南
角勘七郎古屋作兵衛尉堀屋市之丞川野
三右衛門尉飯田雅楽之助川西善十郎山
下彌右衛門尉阿部又六郎野呂瀬右近大夫

以上跡部大炊助同心ノ士

窪田平左衛門尉同姓作右衛門尉常田治
左衛門尉淡江藤七郎中島勘三郎金作惣
右衛門尉古屋八兵衛尉同姓民部大輔竹
井織部正樋田五郎右衛門尉西川新兵衛尉

以上駒井右京進同心ノ士

荻野宮内助橋田又左衛門尉塚越彌三郎
井口與兵衛尉入蔵角左衛門尉坪内善之
丞穂坂清九郎遠藤四郎兵衛尉深澤清三
郎清水又兵衛尉同姓庄右衛門尉折井織
部助飯室次郎兵衛尉加々美六左衛門尉

市川清兵衛尉長坂右近助村松勘五郎岩
下市左衛門尉中島左近太夫同姓宮内助
石原二郎三郎若尾兵助古屋惣左衛門尉
以上跡部九郎右衛門尉同心ノ士
釜場弥八郎五味四郎右衛門尉竹川監物
羽中四郎右衛門尉田邊新兵衛尉太田平
左衛門尉森出雲守九山次兵衛尉三村清
右衛門尉朝比奈權右衛門尉小林内蔵助

辻次郎兵衛尉
以上甘利同心ノ士
西山十右衛門尉同姓又六郎同姓宗蔵山
本十左衛門尉阿部源一郎西山八兵衛尉
薬袋靫負助
以上武田家直参ノ士
大神君鈞命有テ山縣三郎兵衛尉土屋
惣蔵原隼人正一条右衛門太夫ガ従士七十

四人及ビ関東浪人四十三人都テ百七十人ヲメ井伊萬千代直政ニ屬セシメ給フ四隊ノ士卒領地四萬石ヲ以テ一隊ノ將トナサシメ直政ガ從士皆以テ兵器赤色タルベキノ由ヲ相定ラル于時石原主膳正孕石備後ノ守廣瀬左馬助ヲ大神君御前ニ召テ此後汝等直政ニ屬メ忠義ヲ勵スベキノ旨鈞命ヲ蒙ル

廿一日　大神君甲信兩國ノ令ヲ下シ給テ甲府ヲ出給テ濱松ニ御凱旋于時成瀬吉右衛門尉日下部兵右衛門尉ヲメ甲州ノ奉行職ニナサシメ給ヒ平岩七之助ヲ以テ甲州ノ郡代ニ定メラル甲州先方ノ士櫻井市川伊清齋工藤元随齋岩間大藏左衛門ヲ以テ國中ノ巷説ヲ聞テ註進スベキノ旨ヲ命ゼラレ成瀬日下部平岩等

ニ加ヘシメ給フ甲信兩國ゟ　大神君
ノ麾下ニ屬テザルノ所アルニ依テ是ヲ
從ガハシムベキノ命ヲ奉テ大久保七
郎右衛門尉忠世柴田七九郎菅沼大膳ノ正
甲州ニ留ル

天正十一年癸未

正月大

一日諸士濱松ノ城ニ登テ　大神君ニ
謁シ新正ヲ祝シ奉ル事畢テ各若君ニ參
賀ス

二日夜ニ入濱松ノ城ニ於テ例ノ如ク
御謡初アリ諸士　大神君ノ御前ニ參候ス

六日　松平主殿助家忠濱松ニ參候シ城ニ

登テ 大神君ニ謁シ年始ノ賀儀ヲ獻ズ
十三日 大神君穂坂常陸介有泉大学助
ニ御書ヲ賜ル
急度申越候仍其家中人数悉召連甲
府へ可罷越候岡部次郎右衛門平岩七之助ニ令
談合彼表當方河口河尻文新府迄
相移村里一揆根手立肝要ニ候如件
之沙汰可然候 謹言

正月十三日 家康
穂坂常陸介殿
有泉大学助殿

十六日 大神君三州岡崎ノ城ニ渡御アリ
十八日 織田信雄岡崎ニ来テ 大神君ニ
謁見御閑話數刻ニ及ブ人其故ヲ知ラズ
廿日 大神君吉良ニ狩シ給フ
閏正月小

一日大神君岡崎ノ城ヨリ濱松ニ還御
二月小
五日松平主殿助家忠濱松ニ参候シ城
ニ登テ大神君ニ謁ス
十二日大神君松平周防守康親ニ食邑
ヲ給ル先年ヨリ豆州駿州ノ境三枚橋ノ
城ニ在テ相州ノ敵ヲ拒テ其功アルニ依
テ也

駿州於三川東二万石千貫文除同河東
二郡之郡代之事手求在東境同前
労役諸色非之分役知行分同上
川海上野地矣一切公方綺無之宗家行
其相遠綏漢等増ハ剣戸出自其方
相改可致所務此外諸職之事申付
非上者於江津諸公事等一切有異儀
者也仍如件

天正十一年

二月十八日　家康

松平周防守殿

廿日柴田七九郎甲州ノ軍勢ヲ率〆佐久郡ニ軍ヲ發〆小諸岩尾ノ両城ヲ圍テ攻撃ツ

廿二日依田信蕃其弟依田伊賀守信幸善九郎信春兄弟三人佗ノ勢ヲ交エズ已カ一手ノ兵ヲ以テ岩尾ノ城ヲ速ニ抜カントス荒言ヲ吐テ信蕃及ビ信幸信春先登ニ進テ士卒ヲ指揮シ急ニ攻撃テ即時ニ城ヲ陥ル然リト云ヘドモ依田兄弟三人各矢ニ中テ死ス岩尾ノ城主岩尾小次郎城ヲ避テ京都ニ逃ル其後　大神君依田兄弟ガ忠死ヲ義セラレ常陸介信蕃ガ嫡子源十郎二男新六郎両輩ニ松平ノ姓并ニ御諱ノ字ヲ賜リ源十郎ヲ改〆松平修

理亮康國ト号ス

三月大

大神君大久保忠世ヲ信州ニ赴カシメ國中ノ乱ヲ治メシメ給フ依田信蕃死ヌ子幼ナルヲ以テナリ於是忠世康國ト小諸ノ城ヲ下ス

十四日

屋代左衛門勝永 後越中ノ守ト号ス

大神君ノ麾下ニ属ノ軍忠ヲ励スベキノ旨ヲ酒井忠次ヲ以テ 台聴ニ達ス

大神君是ヲ賞メ信州更科郡ヲ勝永ニ賜ル

此度以誓詞當方可有一味之由誠ニ
間彼郡之儀不残令領掌之上相違不
以此旨可被勵忠信者也仍如件

天正十一年

三月十四日 家康

屋代左衛門殿

廿八日 信州諏訪郡ヲ諏訪安藝守頼忠

二賜(タマハ)ル

四月小

十二日大神君御書ヲ屋代(ヤシロ)左衛門佐勝(スケカツ)永二賜(タマハ)ル

今度被属于(ニヨリテ)當方幕下(バツカニ)之段忠信(チウシン)之至

欣(キン)悦候然者荒田(ナナツ)依田(ヨシ)之跡令其表(ソノモノ)無二

沙汰之様ニ者出世之所知(チ)要(ヨウ)者更級大久保

七竒大竒可以宛行候

卯月十二日　家康

屋代左衛門佐殿

十八日大神君重(カサネ)テ御書ヲ屋代勝永(カツ)二

賜(タマハ)ル

急度令啓達候仍而今般之様子ニ付行(テダテ)

等(トウ)之度之趣申越候以依之柴田七九郎

差越候間何様ニも被相談之御忠節ニ候ハゝ以

更級大久保七竒大竒射可以宛行候

卯月十八日　家康

陸代九海ノ射殳

廿一日　羽柴秀吉柴田勝家ト江州志津ガ嶽柳ガ瀬ニ戰フ勝家大ヒニ敗シ越州北ノ庄ニ於テ此月廿四日遂ニ自殺ス時勝家五十七歳

廿八日　大神君師ヲ帥テ濱松ノ城御首途甲州ニ御進發アリ

五月小

十日　大神君甲州ヨリ濱松ノ城ニ御凱旋

廿一日　大神君石川伯耆守數正ヲ御使トシテ羽柴筑前守秀吉ニ初花ノ小壺ヲ贈ラル

此月秀吉參議ニ任ジ從四位下ニ叙ス攝州大坂ノ城ヲ築テ移居ル

七月小

十一日　來月六日　大神君信州川中島

ニ馬ヲ出シ給フベシ軍用ヲ調ヱ供奉ス
ベキノ旨兼テ家忠ニ　命ゼラル又其レ
ヨリ先キ今月廿日大神君ノ姫君北条
氏直ニ嫁シ給フニ依テ来ル十九日家忠
濱松ニ至テ参賀スベキノ旨鈞命ヲ蒙ル
十九日　姫君ノ嫁娶ニ依テ松平主殿助
家忠濱松ニ参賀ス
廿日先日ヨリ甚雨降リ續キ日ヲ經テ

天晴レズ駿遠三洪水陸地舟ヲ行ガ如シ
民屋漂蕩ス是ニ依テ今日姫君ノ婚禮御
延引有テ其後吉日ヲ撰バレ姫君ノ御輿
相州小田原ノ城ニ入テ遂ニ婚禮成ル酒
井左衛門尉忠次是ヲ送リ奉ル矢部四郎
右衛門尉鵜殿大隅守姫君ニ奉仕ス小田
原ニ在リ氏直刀一文字脇指貞宗ヲ以テ忠次
ニ授ク

廿一日　大神君川中島御進発ノ事洪水ニ依テ御延引アリ来月十二日御出馬アルベキノ由ニ定ラル

八月大

六日　羽柴秀吉ノ使津田左馬允濱松ニ来リ城ニ登テ大神君ニ謁ス秀吉刀不動國行シ大神君ニ進ラセラル

十二日　大神君今日ノ御出馬故有テ御延引アリ

十四日　大神君法禁ヲ制シ給ハン為濱松ノ城ヲ御首途甲州ニ赴ムカセ給フ

廿八日　駿州江尻ノ城番西郷孫九郎家貞ニ代テ松平主殿助家忠是ヲ警衛ス

十月大

二日　大神君甲州ヨリ駿州江尻ノ城ニ御帰座

四日　大神君ノ台命ヲ奉テ中久保城ノ経営松平主殿助家忠是ヲ監ス家忠今日興國寺ニ到ル

五日　大神君正四位下ニ叙シ給フ此日井出久左衛門尉ガ鷹見點役ノ事ヲ阿部善九郎是ヲ奉ル

駿州冨士上方料水江鷹見点役地役棟別人足拾間ニ分免許之事

右領掌不可有相違候然者毎年巣鷹可進上之若巣鷹見出年者人足役一切相勤之状如件

天正十一年
十月廿日

井出久左衛門

阿部善九郎奉之

七日　大神君左近衛権中将ニ任ジ給フ

十一月大

十五日　大神君駿府ノ城ニ渡御アリ

十二月大

四日 大神君濱松ノ城ニ還リ入給フ

晦日 松平主殿助家忠越年ノ為メ濱松ニ参候シ城ニ登テ 大神君ニ謁シ歳末ヲ賀シ奉ル

此年 大神君ノ鈞命ニ依テ本多豊後守康重ガ女ヲシテ諏訪頼忠ガ嫡子小太郎頼水 後因幡ノ守ト号ス ニ嫁セシム

此年 大神君駿州中久保ノ古塁ヲ新ニ修セシメ給フ稲垣平右衛門尉長茂 鈞命ヲ奉テ此城ニ在番スル事翌年十月ニ至ル于時 大神君中久保ノ城ヲ牧野右馬允康成ニ賜ル

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan